

レポ — ト

『'90年女性調査』と『'89年男性調査』に見る男女のちがい

子育てと自由時間の過ごし方

【要 約】

- § 1 もし子どもが一人だけなら、男性は男児が、女性は女児がお望み
- § 2 教育は、男の子は大学まで、女の子は本人の意思にお任せ、女性の方が熱心
- § 3 しつけの性差別？ <家事の手伝い>はもっぱら女の子に
- § 4 自由時間は休息とTVと、男性はスポーツ、女性はショッピング

1991年6月

ポ — ラ文化研究所

(担当 小池)

ポラ文化研究所の「'90 女性の意識と行動調査」が、最近刊行されました。

昨年の「'89 男性の意識と行動調査」に続く調査で、3年前の「'87 女性の意識と行動調査」の第2ラウンドです。

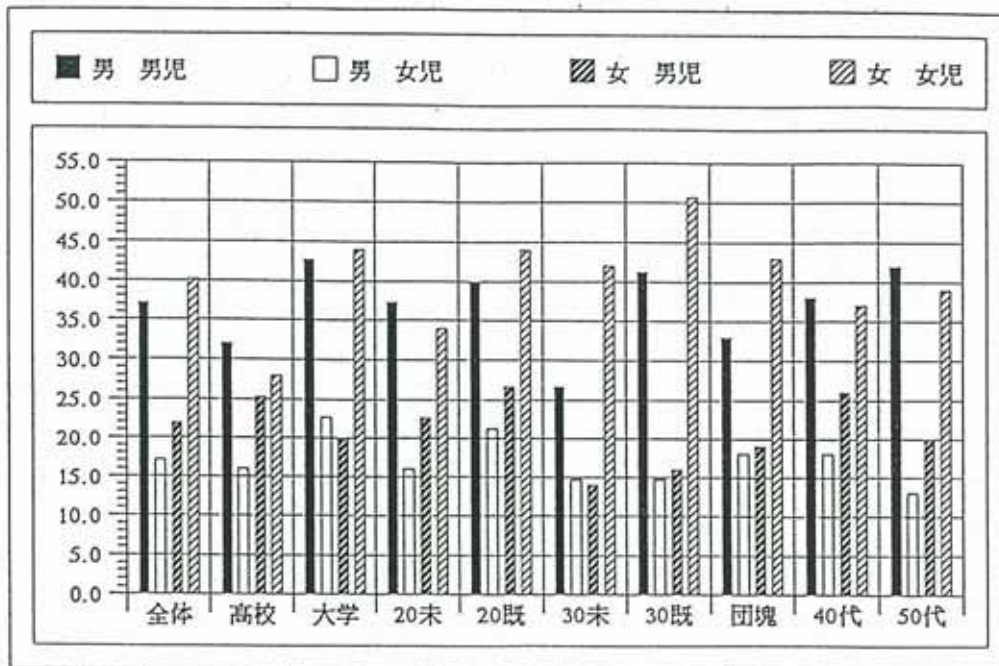
「'89 男性調査」と「'90 女性調査」とで、男性と女性の意識と行動の上での異同を、いくつかの項目をピックアップして比較してみました。

§1 <1人子>ならほしいのは、男性は男の子、女性は女の子

<1人しか子どもができないとしたら、男の子・女の子どちらを望みますか>

('89-Q15, '90-Q13)

図1



1人しか子どもができないとしたら、男性は「男の子がほしい」と思い、女性は「女の子がほしい」という傾向が顕著です。(図1)

全体的には、男性の男児希望(37.1%)は女児希望(17.1%)の2倍強になっていますし、女性の女児希望(40.2%)も男児希望(21.9%)のほぼ2倍になっています。

グラフには出ていませんが「どちらでもいい」という寛容な人は、男女ともに34.8%と32.8%で、いずれもほぼ3分の1です。

年齢別にみて特異な例を拾ってみました。男性では、30代既婚(41.3:14.7)と50代

(42.0:13.0)で男児希望が女児希望の3倍もあります。

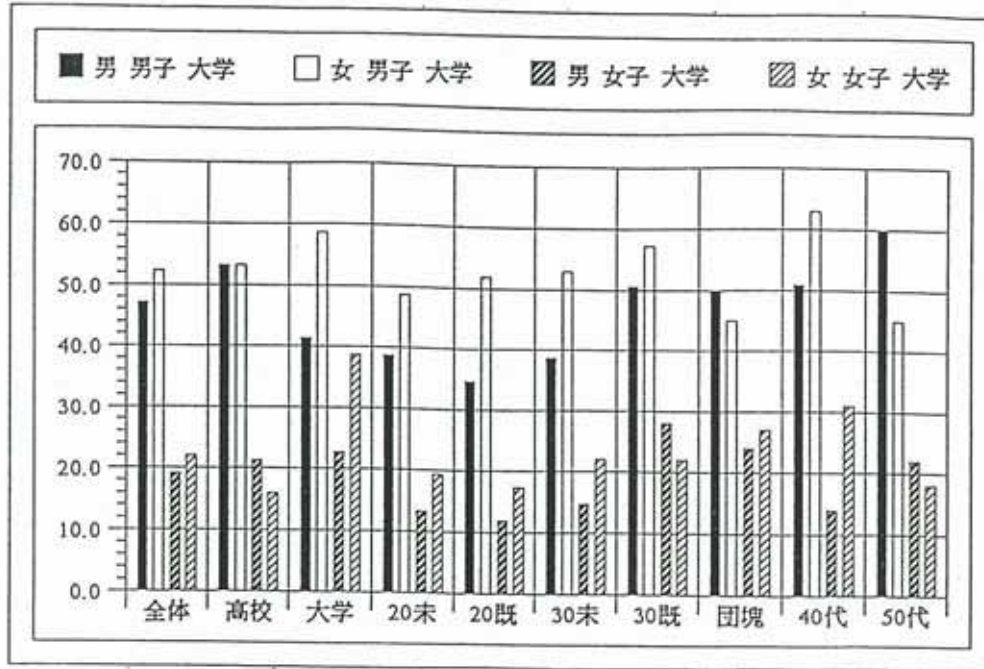
また女性では30代未婚(14.0:42.0)と30代既婚(16.0:50.7)とも、男児希望は女児希望の3分の1しかありません。(女児希望が男児希望の3倍ということです)

ところが高校女性では男児希望と女児希望はほぼ同数(25.3:28.0)です。

ちなみに「どちらでもいい」と謙虚に天の配剤に任せるという人が多いのは、30代未婚男性(45.3%)と団塊男性(46%)で、半数に迫ります。

§ 2 男の子は大学までやりたい、女の子は本人の自由に任せる
 <男の子には、どこまで教育を受けさせたいと思いますか> ('89-Q13, '90-Q2)
 <女の子には、どこまで教育を受けさせたいと思いますか> (各 SQ1)

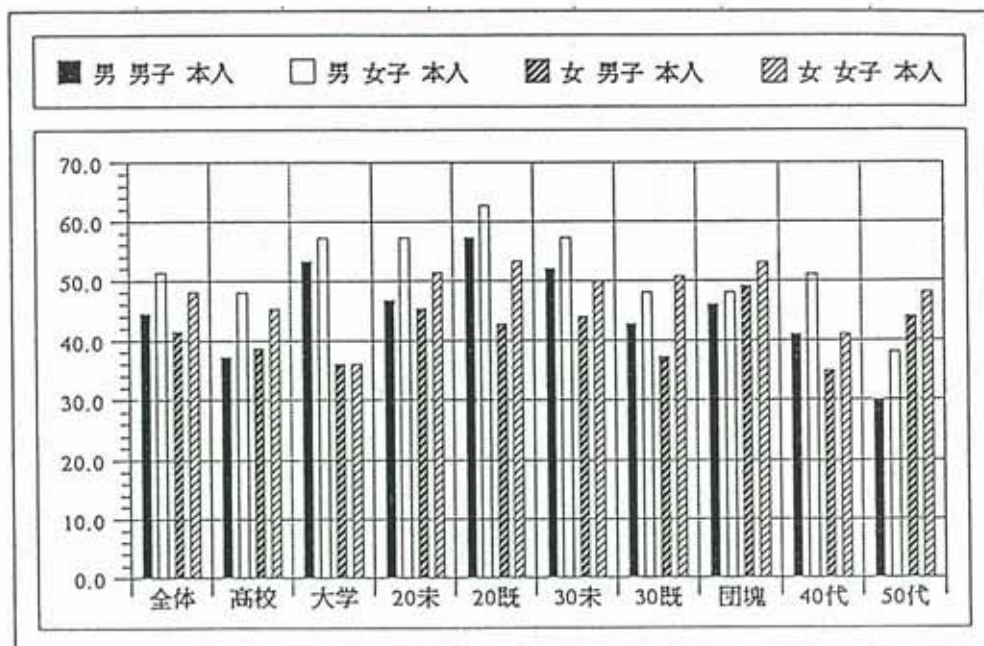
図2



全体では「大学・大学院」までやりたいと思う人は、男の子については男性・女性ともほぼ50%がそう考えているのに対して、女の子については男性・女性ともに20%くらいしかありません。(図2)

もっとも、女の子は大学へ行かなくていいとしているわけではありません。「本人の意思に任せる」とする人が、女の子については男性・女性ともほぼ半数(図3)もあります。

図3



とはいえ大学・大学院進学に対する期待は、男の子には女の子に対するよりも、直接かつ大きいと言えるでしょう。

男の子は親の期待の重圧にひしがれ、女の子は自分の希望でのびのびと受験生活を過ごしている、そんな状況が見えてきます。

年齢別に見ると、現高校生や大学生も含めてどの年齢層でも、男性も女性も、男の子を大学まで行かせたい人の方が女の子を行かせたい人よりも明らかに多い。また、男の子でも女の子でも、大学に行かせたい人は、女性の方が男性より多いというのは、面白い現象です。

例外的に女性の方が男性より少ないのは、男の子に対する団塊世代、女の子に対する高

校生と30代既婚、そして男の子・女の子両方に対する50代です。

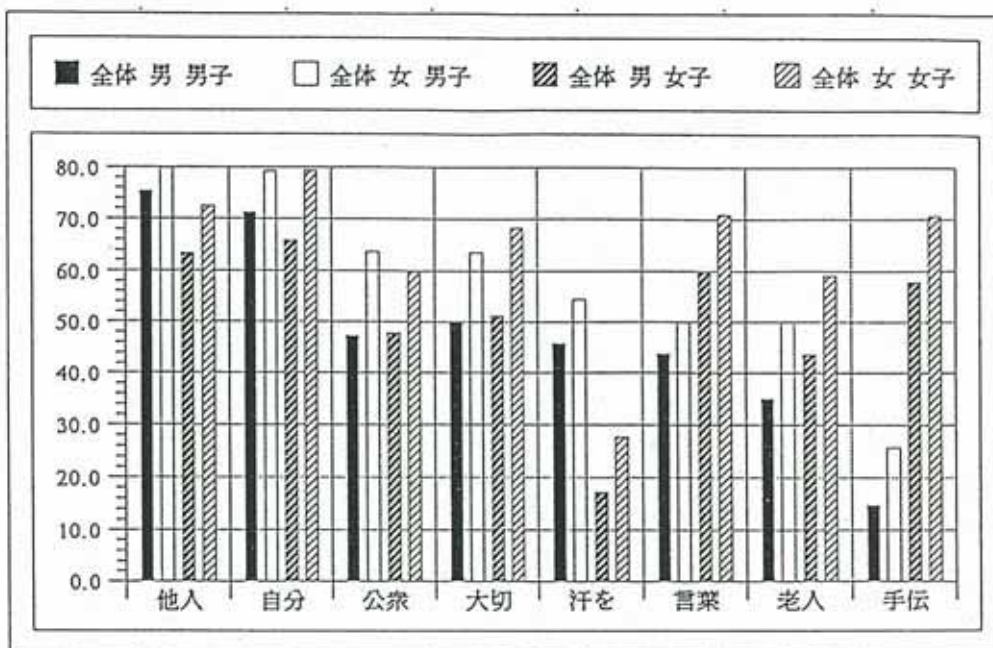
§3 しつけの性差別？ 男女ともく家の手伝い>は「女の子向き」で意見一致
 <男の子のしつけで大切なのはどれですか。いくつでも選んで下さい> ('89-Q14, '90-Q4)
 <女の子のしつけで大切なのはどれですか。いくつでも選んで下さい> (各 SQ1)

しつけ項目20の中から、いくつでも数を制限しないで選んでもらいました。

- そのうち、
- ★他人に迷惑をかけない
 - ★自分のことは自分でする
 - ★公衆道徳を守る
 - ★ものを大切にする

- ★身体を動かし汗をかく
 - ★キチンとした言葉遣いで話す
 - ★老人や病人にやさしくする
 - ★家の手伝い
- と、比較的支持の多いものを含む8項目について比べてみました。(図4)

図4



どうもしつけには、男の子と女の子とで比重の置き方を違える考え方が、男性女性共通にあるようです。

<公衆道徳を守る><自分のことは自分でする><ものを大切にする>の3項目は、男の子と女の子とはほぼ平等に大切とされます。

<他人に迷惑をかけない><身体を動かし汗をかく>の2項目は男の子により多く大切とされます。

反対に<キチンとした言葉遣い><老人や病人にやさしく><家の手伝い>の3項目は女の子により多く大切とされます。

男の子向きと女の子向きの判断は、どの項目も男性・女性同じで、反対の例はありません。

また男の子にも女の子にも、どの項目でもしつけが必要とする人は、おおむね男性よりも女性の方が多くなっています。

中で<身体を動かして汗をかく>と<家の手伝い>は、「しつけの性差別」の代表とも言えそうです。

<汗をかく>は男の子に対しては男性・女性とも50%前後が大切とするのに、女の子に対しては半分以下の20%前後です。

一方、<家の手伝い>を大切とするのは、男性では男の子14.8%に対し女の子58.0%、女性でも男の子25.8%に対し女の子70.7%と大差がついています。

先の大学進学に対する意向とあわせれば、食事の用意や後片付けを女の子は手伝うのが当然なのに、男の子は手伝いなんかいいから、受験勉強をしっかりしなさいと勉強部屋に追いやられる風景が見えるようです。

図5 <汗をかく>、図6 <言葉遣い>、図7 <老人にやさしく>、図8 <家の手伝い>の4項目の年齢別グラフを掲げます。

图5

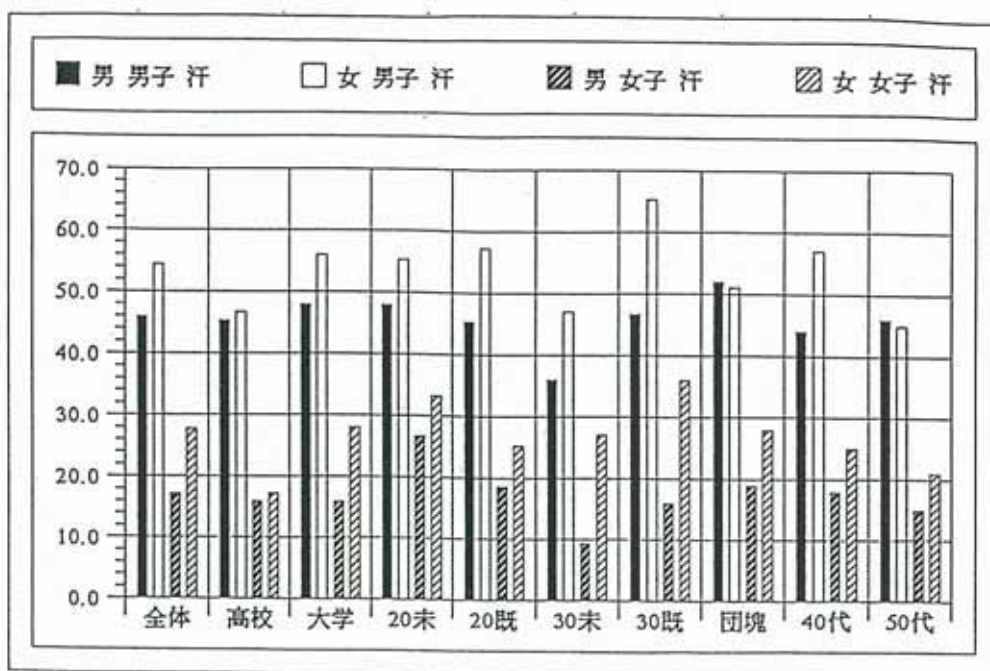


图6

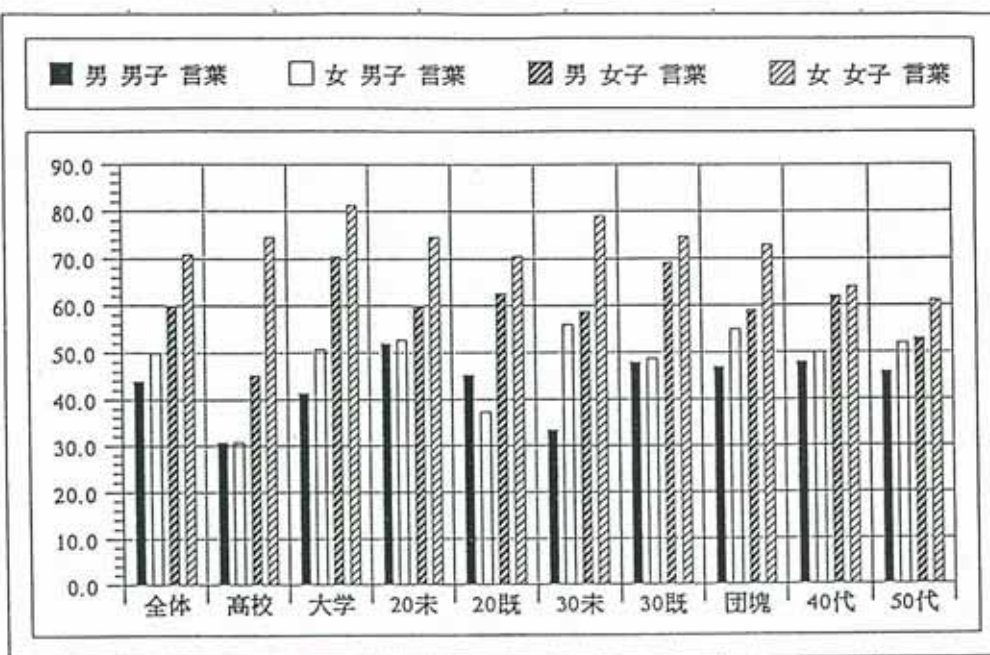


图7

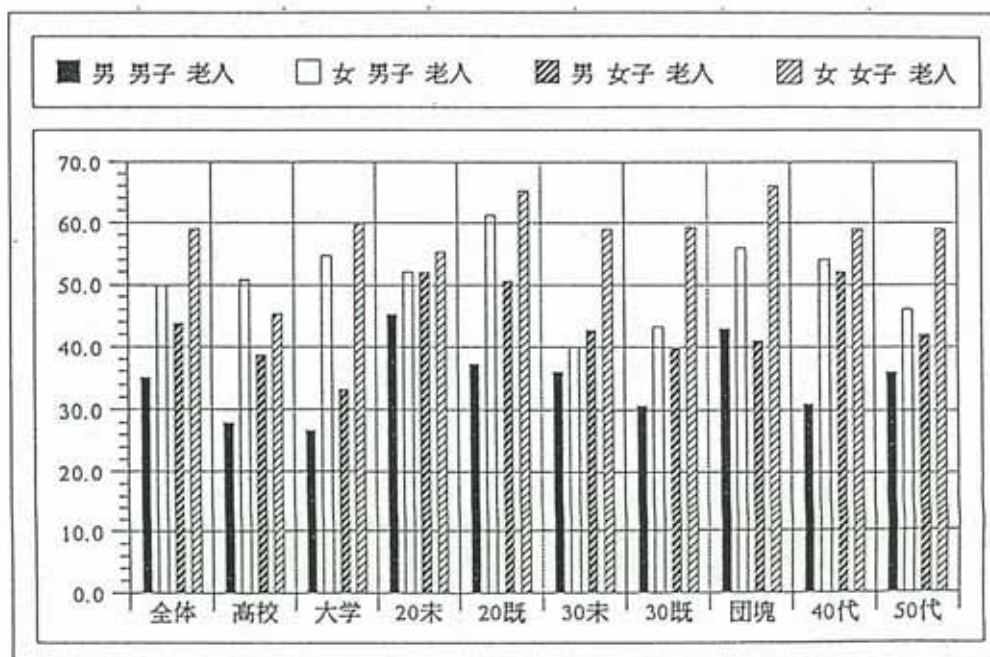
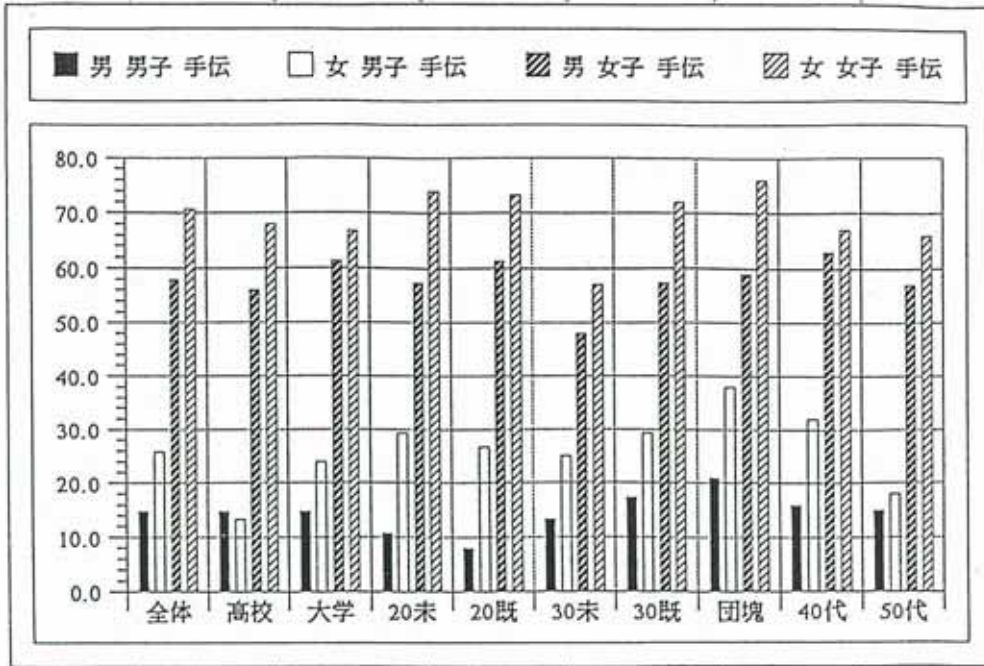


図8



しつけられる当事者ともいうべき高校生や大学生の男性・女性でも、大人の世代の男性・女性とはほぼ類似の傾向を示すことに、驚きを禁じえません。

それどころか<言葉遣い>については、高校や大学の女性の女の子に対する重視度が高いのに比べて、40代や50代の世代が男女に対

して平等な感覚で見ているのに目が引かれます。

例外は<老人や病人にやさしく>について、高校女性が男の子50.7%に対し女の子45.3%、団塊男性が男の子43.0%に対し女の子41.0%といずれも大切とする比率がほぼ同数であることぐらいです。

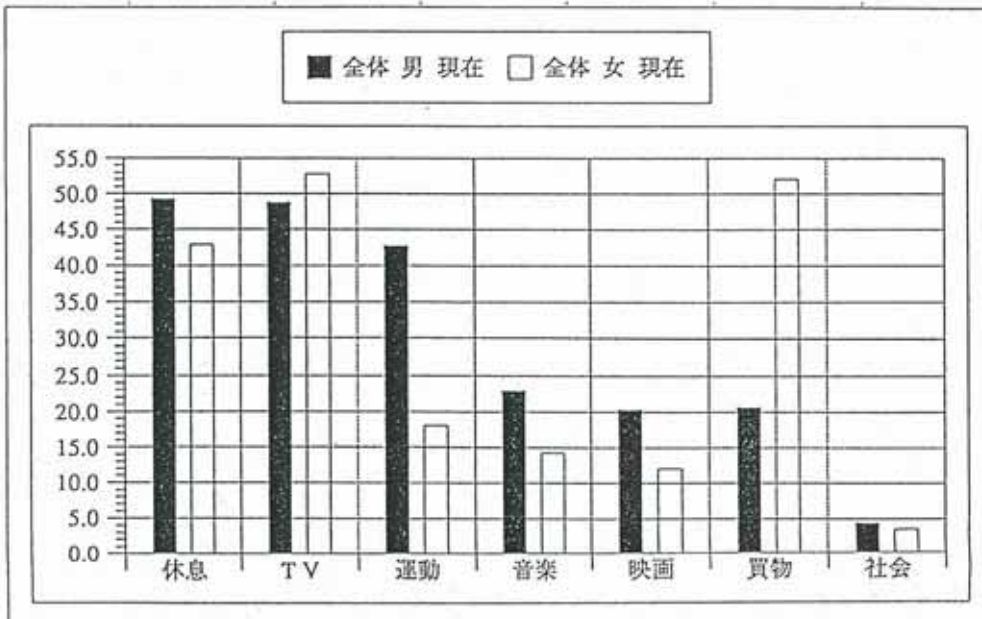
§4 自由時間(現在) 男・休息とTV 女・TVとショッピング

<現在どんなことをして自由な時間を過ごしていることが多いですか> ('89-Q4, '90-Q36)

- ★身体を休める
- ★テレビ・ビデオ
- ★スポーツをする
- ★音楽・絵画などの鑑賞
- ★映画の鑑賞

- ★ショッピング
 - ★みんなのためになる活動をする
- 比較的支持の多いのと特徴のある項目を7つ選んでみました。

図9



現在の自由時間の過ごし方を見ると、男性では<休息>49.3%、<TV・ビデオ>48.8%、<スポーツ>42.8%がベスト3。女性のベスト3は、<TV・ビデオ>52.8%、

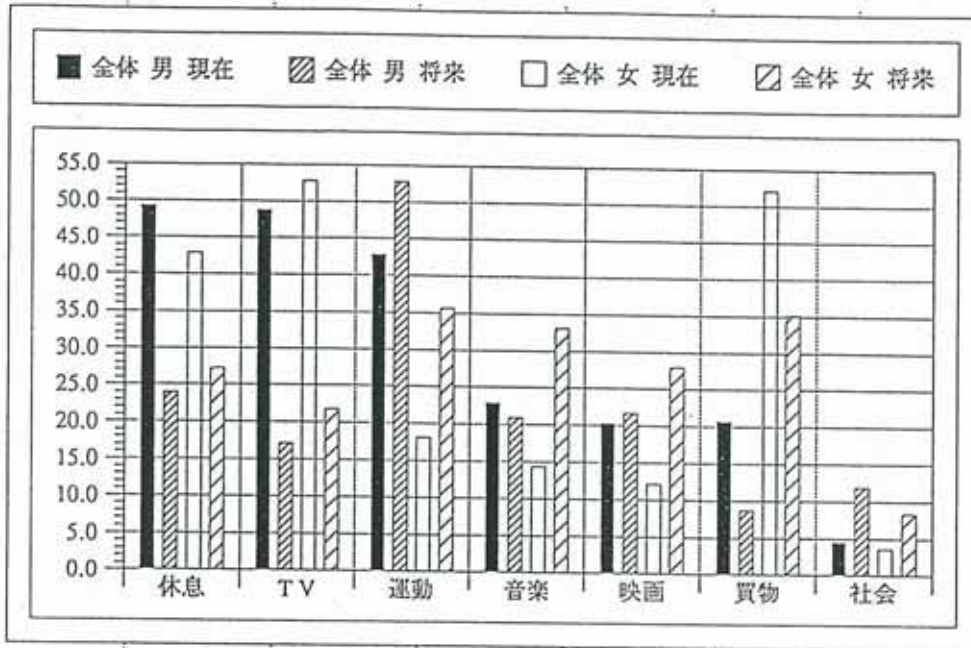
<ショッピング>52.1%、<休息>42.9%です。(図9)

正直なところ女性の<スポーツ>の少ないのに驚きました。

自由時間(将来) 男・スポーツ 女・スポーツとショッピングと音楽鑑賞
 <将来どんなことをして自由な時間をすごしたいと思いますか> (各 SQ1)

将来に向けてはどのような意向をもっているでしょう。(図10)

図10



男性・女性共、<休息><TV・ビデオ>は劇的な減少傾向を示しています。

<ショッピング>も相当な激減ぶりですが、それでも女性の場合はショッピング・ファンはまだ35%もあり、根強い魅力を維持しています。

一方<スポーツ>は男性・女性両方で顕著に増加し、<音楽や絵画の鑑賞>と<映画鑑賞>は、女性で顕著に増加しています。

そして、まだ僅かではありますが、<みんなのためになる活動をする>が、確かな増加のきざしを見せています。